

# 第 1 章

「確かな学力」の定着を図るための調査

# I 小学校における「確かな学力」の定着を図るための調査の結果について

## 1 調査結果の概要

教科	内 容	《内容ごとの正答率》		評価の観点	《観点ごとの正答率》	
		全都平均 正 答 率	全都平均正答率グラフ(%) 0 50 100		全都平均 正 答 率	全都平均正答率グラフ(%) 0 50 100
国 語	話すこと・聞くこと	82.2%		国語への関心・意欲・態度	92.8%	
	書くこと	70.6%		話す・聞く能力	77.7%	
	読むこと	73.3%		書く能力	62.6%	
	言語事項	68.3%		読む能力	69.5%	
	総合	71.9%		言語についての知識・理解・技能	68.3%	
算 数	数と計算	78.2%		算数への関心・意欲・態度	89.9%	
	量と測定	79.9%		数学的な考え方	73.4%	
	図形	71.4%		数量や図形についての表現・処理	77.7%	
	数量関係	76.8%		数量や図形についての知識・理解	70.7%	
	総合	76.8%				
社 会	地域学習	83.0%		社会的事象への関心・意欲・態度	94.6%	
	我が国の食料生産	84.3%		社会的な思考・判断	86.1%	
	我が国の工業生産	78.8%		観察・資料活用 of 技能・表現	74.6%	
	総合	81.9%		社会的事象についての知識・理解	78.2%	
理 科	生物とその環境	70.3%		自然事象への関心・意欲・態度	95.7%	
	物質とエネルギー	68.0%		科学的な思考	72.5%	
	地球と宇宙	83.7%		観察・実験の技能・表現	71.0%	
	総合	73.7%		自然事象についての知識・理解	65.9%	

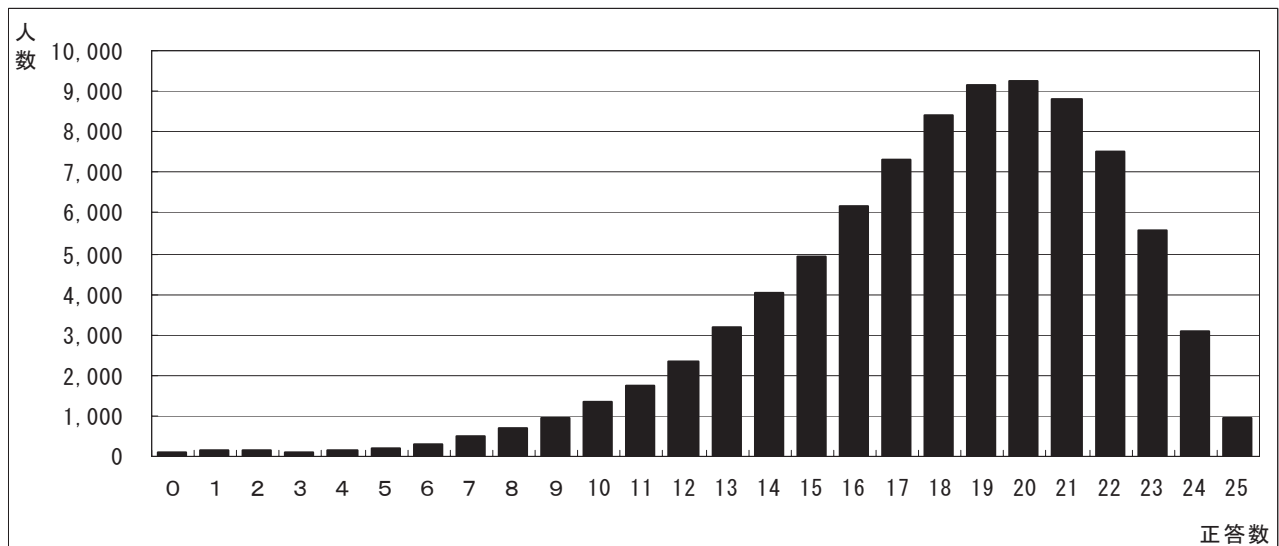
## 2 各教科の問題ごとの正答率と正答数分布

### 《国 語》

問題番号	通し番号	学習指導要領の内容	出題のねらい	評価の観点					正答率	正答率グラフ (%)
				意欲・態度・関心	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語知識・理解・技能		
①(1)	1	言語(1)ア(ア)	当該学年までに配当されている漢字を文脈に即して正しく読む。					○	99.5%	
①(2)	2	言語(1)ア(ア)	当該学年までに配当されている漢字を文脈に即して正しく読む。					○	56.1%	
①(3)	3	言語(1)ア(ア)	当該学年までに配当されている漢字を正しく読む。					○	84.3%	
②(1)	4	言語(1)ア(ア)	前学年までに配当されている漢字を文脈に即して正しく書く。					○	91.9%	
②(2)	5	言語(1)ア(ア)	前学年までに配当されている漢字を文脈に即して正しく書く。					○	57.3%	
②(3)	6	言語(1)ア(ア)	前学年までに配当されている漢字を正しく書く。					○	80.8%	
③(1)	7	3・4年言語(1)オ(ア)	修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつ。					○	37.1%	
③(2)	8	3・4年言語(1)オ(ア)	修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつ。					○	90.9%	
④(1)	9	3・4年言語(1)エ(ア)	表現したり理解したりするために必要な語句を増す。					○	87.5%	
④(2)	10	3・4年言語(1)エ(ア)	表現したり理解したりするために必要な語句を増す。					○	21.7%	
⑤(1)	11	言語(1)ウ(ウ)	辞書を利用して調べる。					○	81.7%	
⑤(2)	12	言語(1)ウ(ウ)	辞書を利用して調べる。					○	30.4%	
⑥(1)	13	A 話聞ア	考えた事や意図が分かるように話の組み立てを工夫する。		○				69.3%	
⑥(2)	14	A 話聞ア	考えた事や意図が分かるように効果的な話し方を工夫する。		○				73.3%	
⑥(3)	15	A 話聞ア	考えた事や意図が分かるように効果的な資料を使って話をする。		○				90.6%	
⑥(4)	16	A 話聞ア	目的や意図を考えながら、話の組み立てを工夫して話をしようとする。	○					95.5%	

問題番号	通し番号	学習指導要領の内容	出題のねらい	評価の観点					正答率	正答率グラフ (%)
				国語への意欲・態度・関心	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語知識・理解・技能		
7(1)	17	3・4年 B 書イ	書く必要のある事柄を収集したり、選択したりする。			○			70.8%	
7(2)	18	3・4年 B 書オ	文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりする。			○			58.5%	
7(3)	19	B 書エ	事実と感想、意見などを区別して書く。			○			58.6%	
7(4)	20	B 書ア	相手や目的に応じて、効果的に書こうとする。	○					94.4%	
8(1)	21	C 読ウ	登場人物の心情や場面についての描写など味わいながら叙述に即して読む。				○		59.0%	
8(2)	22	C 読ウ	登場人物の心情や場面についての描写など味わいながら叙述に即して読む。				○		78.1%	
8(3)	23	C 読ウ	登場人物の心情や場面についての描写など味わいながら叙述に即して読む。				○		74.2%	
8(4)	24	C 読ウ	表現のよさ、表現の効果を感じとって鑑賞しながら読む。				○		66.7%	
8(5)	25	C 読ア	自分の考えを広げたり、深めたりするために進んで読もうとする。	○					88.6%	

◇ 正答数分布

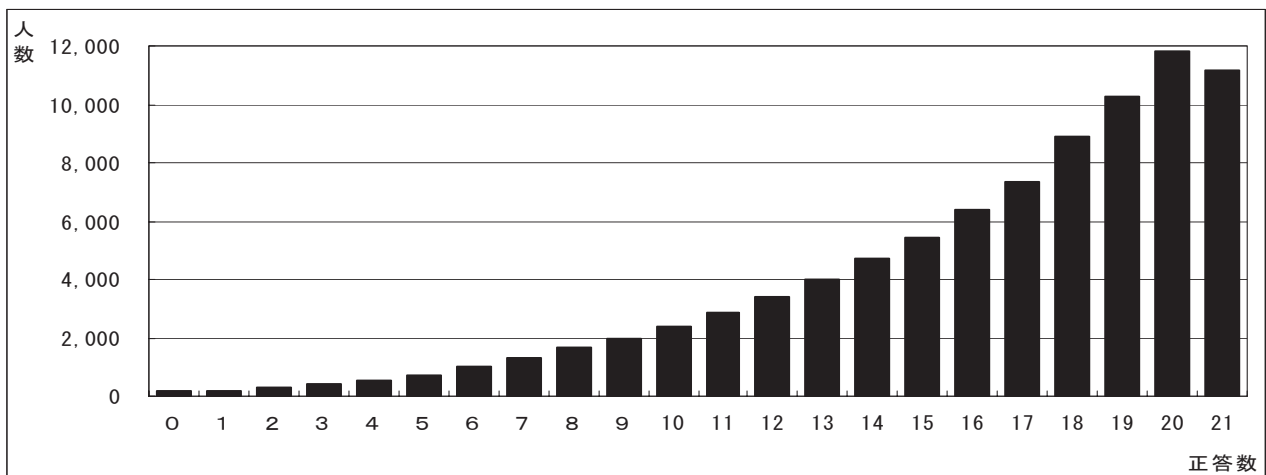


《算 数》

問題番号	通し番号	学習指導要領の内容	出題のねらい	評価の観点				正答率	正答率グラフ (%)
				算数への意欲・態度・関心	数学的な考え方	数量、図形、表現・処理	数量、図形、知識・理解		
①(1)	1	4年D(2)ア	四則の混合した式を正しく計算することができる。			○		72.0%	
①(2)	2	5年A(3)ウ	小数の乗法の計算ができる。			○		77.5%	
①(3)	3	5年A(3)ウ	小数の除法の計算ができる。			○		70.5%	
①(4)	4	5年A(4)エ	同分母の分数の減法の計算ができる。			○		88.7%	
②	5	3年A(3)イ	2位数同士の乗法の計算ができる。			○		88.7%	
③	6	5年A(3)イ	除数が整数の場合のわり算の性質を基にして、除数が小数の場合の計算の仕方を考えることができる。		○			91.0%	
④(1)	7	5年A(5)ア	目的に応じた、見積もり方法について判断しようとする関心・意欲・態度がある。	○				85.4%	
④(2)	8	5年A(5)ア	目的に応じて、概数で見積もることができる。			○		64.6%	
⑤(1)	9	5年A(3)イ	小数の除法の演算決定を順序立てて考えることができる。		○			72.2%	
⑤(2)	10	5年A(3)イ	小数の除法の意味が分かる。				○	65.4%	
⑥(1)	11	5年B(1)ア	三角形の面積の求め方が分かる。				○	72.7%	
⑥(2)	12	5年B(1)ア	平行四辺形の面積の求め方が分かる。				○	70.3%	
⑦	13	3年B(2)	目的に応じて単位や計器を適切に選んで、測定しようとする。	○				96.6%	
⑧	14	5年C(1)ウ	平行四辺形や台形、ひし形などの図形の性質（辺の平行関係）が分かる。				○	64.9%	
⑨	15	5年C(1)ア	直線の垂直の意味が分かる。				○	75.9%	
⑩(1)	16	5年C(1)ウ	三角形の内角の和が180°であることを用いて、五角形、六角形の内角の和を求めることができる。		○			57.0%	

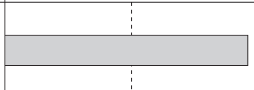
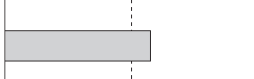
問題番号	通し番号	学習指導要領の内容	出題のねらい	評価の観点				正答率	正答率グラフ (%)
				算数・態度への関心・意欲	数学的な考え方	数量、図形の表現・処理	数量、図形についての知識・理解		
10(2)	17	5年C(1)ウ	図形の角について調べたり、考えたりしようとする。	○				87.7%	
11(1)	18	4年D(1)ア	二つの数量の対応や変わり方に着目し、数量を求めることができる。			○		91.3%	
11(2)	19	4年D(1)ア	二つの数量の対応や変わり方に着目し、数量を求めることができる。			○		77.4%	
12(1)	20	4年D(3)イ	二つの観点から物事を落ちや重なりがないように分類・整理することができる。			○		68.3%	
12(2)	21	4年D(3)ア	二つの観点から物事を分類・整理する方法を理解している。				○	74.7%	

◇正答数分布

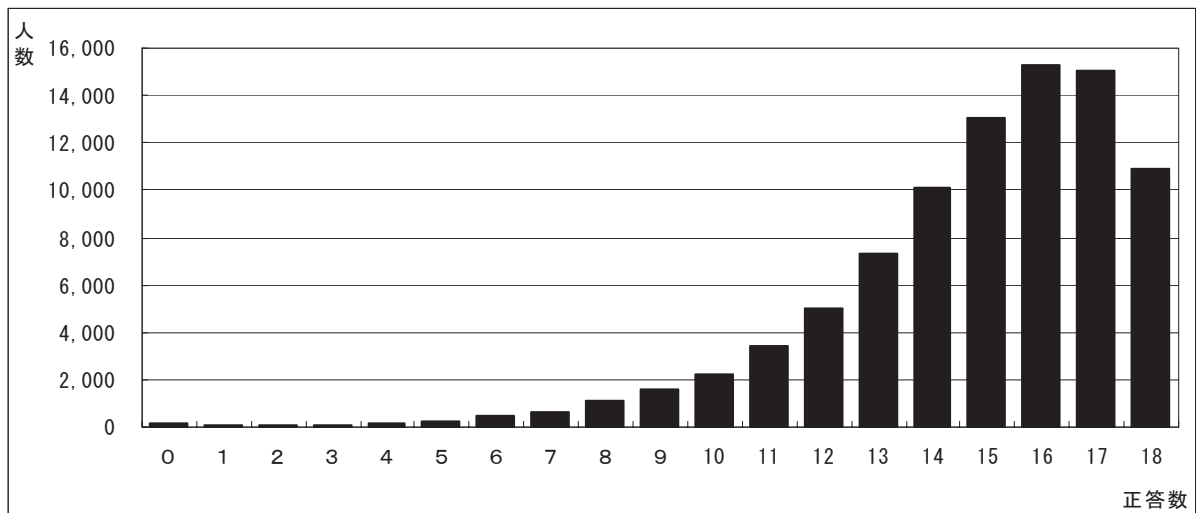


《社 会》

問題番号	通し番号	学習指導要領の内容	出題のねらい	評価の観点				正答率	正答率グラフ (%)
				社会的・意欲・態度への関心	判断	観察・技能・表現	社会的知識・理解		
①	1	3・4年(1)ア	主な地図記号や方位を活用して土地利用の様子や施設などの場所を読み取る。			○		59.2%	
②(1)	2	3・4年(5)ア	地域の人々の話から昔の道具の様子やそれらの使い方を読み取る。			○		85.9%	
②(2)	3	3・4年(5)ア	地域の人々の生活と道具の変化を考える。		○			96.4%	
③	4	3・4年(5)イ	地域に昔から伝わるものや行事に進んでかかわろうとする。	○				98.4%	
④(1)	5	3・4年(6)イ	等高線から東京都の土地の高さを読み取る。			○		82.0%	
④(2)①	6	3・4年(6)ウ	東京都の地域の特色や産業が分かる。				○	84.2%	
④(2)②	7	3・4年(6)エ	東京都と結び付きのある県の位置が分かる。				○	62.9%	
⑤	8	3・4年(3)ア イ	廃棄物を減らすための取組の意味について考える。		○			95.1%	
⑥(1)	9	5年(1)イ	分布図から米の生産量が多い地方を読み取る。			○		93.6%	
⑥(2)	10	5年(1)ウ	米づくりの生産の工夫が分かる。				○	84.1%	
⑥(3)	11	5年(1)ア イ ウ	我が国の水産業について適切な学習方法を選択する。	○				94.3%	
⑦	12	5年(1)ア	統計資料から我が国の食料生産の現状と課題を読み取る。			○		65.3%	
⑧(1)	13	5年(2)イ	分布図から我が国の工業が盛んな地域の分布の特色を読み取る。			○		61.5%	
⑧(2)	14	5年(1)ア イ ウ	我が国の工業生産について適切な学習課題を選択する。	○				91.0%	
⑨(1)①	15	5年(2)ウ	自動車生産の関連工場の働きが分かる。				○	81.6%	
⑨(1)②	16	5年(2)ウ	自動車生産の特色について考える。		○			85.8%	

問題番号	通し番号	学習指導要領の内容	出題のねらい	評価の観点				正答率	正答率グラフ (%)
				社会的・意欲・態度への関心	判断力	観察・技能・資料活用	社会的知識・理解		
9(2)	17	5年(2)ウ	自動車生産の開発の取組の意味について考える。		○			95.8%	
10	18	5年(2)ウ	我が国の貿易の在り方に対する意見の根拠について考える。		○			57.1%	

◇ 正答数分布

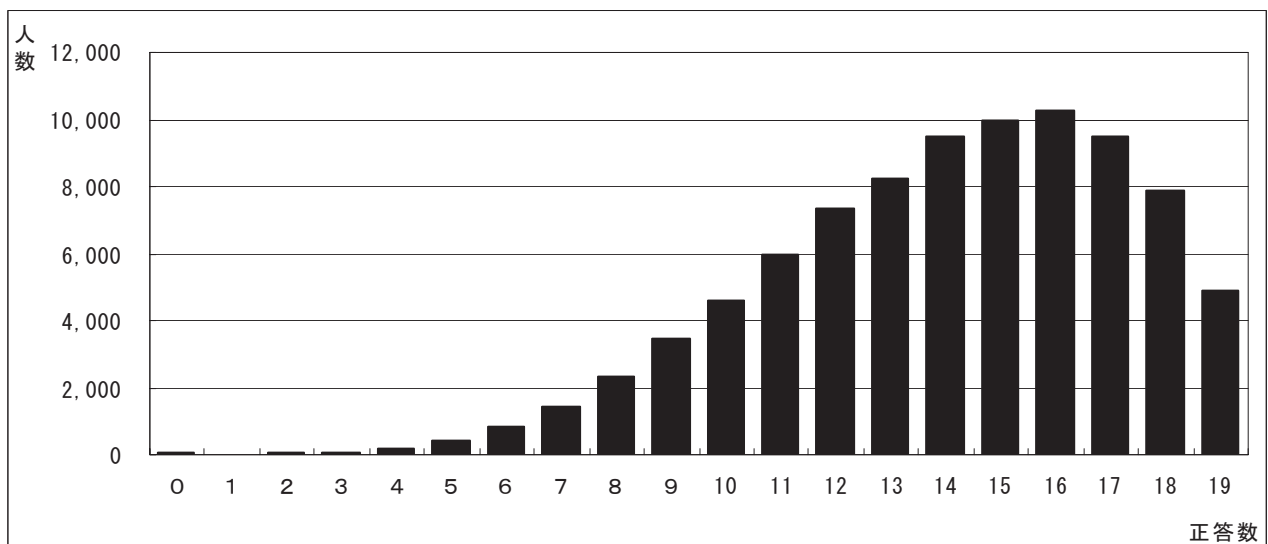


《理 科》

問題番号	通し番号	学習指導要領の内容	出題のねらい	評価の観点				正答率	正答率グラフ (%)
				関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・表現の技能	て自然事象に関する知識・理解		
①(1)	1	3年A(1)ア	昆虫の育ち方には一定の順序があることを理解している。				○	60.1%	
①(2)	2	3年A(1)ア	昆虫の胸には、3対6本のあしがあることを理解している。				○	60.5%	
②(1)	3	5年A(1)ア イ	植物の発芽について、条件に着目して観察や実験の計画を立てることができる。				○	73.7%	
②(2)	4	5年A(1)ア イ	植物の発芽について、条件に着目して観察や実験の計画を立てることができる。				○	58.7%	
②(3)	5	5年A(1)ア イ	植物の発芽について、結果から結論を考察することができる。		○			76.5%	
②(4)	6	5年A(1)ウ	植物の成長について興味・関心を持ち、意欲的に追究しようとする。	○				92.1%	
③(1)	7	4年B(3)ア	乾電池の数やつなぎ方を変えると豆電球の明るさが変わることを理解している。				○	58.3%	
③(2)	8	4年B(3)ア イ	電気について興味・関心を持ち、意欲的に追究しようとする。	○				98.7%	
④	9	3年B(3)ア イ	磁石の性質について理解している。				○	69.7%	
⑤(1)	10	5年B(2)イ	てこの働きについて、条件に着目して実験の計画を立てることができる。				○	64.2%	
⑤(2)	11	5年B(2)イ	てこの働きについて、力を加える位置や力の大きさを関係付けて考えることができる。		○			50.6%	
⑥(1)	12	5年B(2)イ	てこの働きの規則性を調べ、観察や実験の結果を的確に記録することができる。				○	72.8%	
⑥(2)	13	5年B(2)イ	てこが釣り合うときのおもりの重さや支点からの距離を関係付けて考えることができる。		○			61.4%	
⑦(1)	14	3年C(1)ア	太陽の動きについて理解している。				○	63.2%	
⑦(2)	15	4年C(1)ウ	代表的な星の集まり(星座)の名称を理解している。				○	83.4%	
⑦(3)	16	4年C(1)ウ	星の集まり(星座)は並び方を変えずに位置を変えていると考えることができる。		○			90.8%	

問題番号	通し番号	学習指導要領の内容	出題のねらい	評価の観点				正答率	正答率グラフ (%)
				関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・表現の技能	自然現象についての知識・理解		
7(4)	17	4年C(1)イウ	星に興味・関心をもち、意欲的に観察しようとする。	○				96.4%	
8(1)	18	5年C(1)ア	温度計を用いて気温を適切に測定することができる。			○		85.5%	
8(2)	19	5年C(1)ア	1日の気温の変化を基にして、その日の天気について考えることができる。		○			83.1%	

◇ 正答数分布



### 3 各教科の調査結果から見た課題及び指導方法改善のポイント

#### 《国 語》

##### (1) 内容・観点ごとの結果と分析

###### 【内容ごとの結果と分析】

- 教科全体の総合的な平均正答率は71.9%であり、学習指導要領の第5学年の目標や内容に照らした学習の実現状況については、おおむね良好といえる。
- 「話すこと・聞くこと」の平均正答率は82.2%であり、良好であるが、出題数4問中、正答率が70%を下回る問題が1問ある。
- 「書くこと」「読むこと」の平均正答率はともに70%を上回っており、おおむね良好である。「書くこと」は4問、「読むこと」は5問出題し、正答率が70%を下回る問題が2問ずつある。
- 「言語事項」の平均正答率は68.3%であり、おおむね良好であるが、出題数12問中、正答率が70%を下回る問題が5問ある。

内 容	全都平均正答率
話すこと・聞くこと	82.2%
書くこと	70.6%
読むこと	73.3%
言語事項	68.3%
総 合	71.9%

###### 【観点ごとの結果と分析】

- 観点ごとの第5学年における学習指導要領の目標や内容に照らした学習の実現状況については、「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」は良好、「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」はおおむね良好、「書く能力」はやや課題があるといえる。
- 「国語への関心・意欲・態度」の平均正答率は92.8%であり、出題した3問とも85%を超える正答率である。[6](4)は、「スピーチをするときに気を付けるとよいこと」について出題し、正答率は95.5%である。[7](4)は、「経験した事を新聞に書くときに気を付けるとよいこと」について出題し、正答率は94.4%である。[8](5)は、「読書をするときの本の読み方」について出題し、正答率は88.6%である。
- 「話す・聞く能力」の平均正答率は77.7%であり、出題数3問中、正答率が70%を下回る問題が1問ある。[6](1)は、考えた事や意図が分かるように話の組み立てを工夫することについて出題し、正答率は69.3%である。[6](3)は、考えた事や意図が分かるように効果的な資料を使って話をする事について出題し、正答率は90.6%である。
- 「書く能力」の平均正答率は62.6%であり、出題数3問中、正答率が70%を下回る問題が2問ある。[7](2)は、推敲について出題し、正答率は58.5%である。[7](3)は、経験した事と思った事の区別について出題し、正答率は58.6%である。
- 「読む能力」の平均正答率は69.5%であり、出題数4問中、正答率が70%を下回る問題が2問ある。[8](1)は、叙述に即して場面の様子を読むことについて出題し、正答率は59.0%である。[8](4)は、表現のよさや表現の効果を感じ取って鑑賞しながら読むことについて出題し、正答率は66.7%である。
- 「言語についての知識・理解・技能」の平均正答率は68.3%であり、出題数12問中、正答率が70%を下回る問題が5問ある。[1](2)は、当該学年までに配当されている漢字を文脈に即して正しく読むことについて出題し、正答率は56.1%である。[3](1)は、主語と述語の照応について出題し、正答率は37.1%である。[4](2)は、「便利」の意味について出題し、正答率は21.7%である。[5](2)は、辞書で調べた事の中から適切な意味を選択することについて出題し、正答率は30.4%である。

評価の観点	全都平均正答率
国語への関心・意欲・態度	92.8%
話す・聞く能力	77.7%
書く能力	62.6%
読む能力	69.5%
言語についての知識・理解・技能	68.3%

(2) 問ごとの結果分析と指導方法改善のポイント

3(1) 文の構成に関する事項を活用する力に課題が見られる。

【結果分析】

問題番号	ねらい	正答	1	2	3	4	5	6	その他	無回答
3(1)	修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつ。 【言語に関する知識・理解・技能】	1	37.1%	1.1%	5.3%	2.8%	2.4%	8.8%	40.2%	2.3%

3(1)は、主語と述語をとらえることができるかを問う問題であり、正答率は37.1%である。その他の回答の反応率は40.2%であり、主語として、「千葉県に」「住んでいる」「出しました。」を選んだもの、述語として、「住んでいる」「出しました。」以外のものが目立つ。その原因として、「だれが」「何を」「どうした」という文の構成に関する事項やどのような品詞が主語や述語になるのかといった知識の定着が十分ではないことが考えられる。それらは第3学年及び第4学年の指導内容であるが、学習したことを定着させるためには、文の構成に関する事項を繰り返し確認する時間を設けることが重要である。

【指導方法改善のポイント】言語についての知識・理解を活用する場面を適切にとらえて指導する。

文章の内容を理解するためには、それぞれの文の中での語句の役割や、語句相互の関係に気を付けて、文がどのように組み立てられているかを理解することが大切である。このような力は、実際に文章を読んだり、書いたりするなどの言語活動を通して、徐々に定着していくものである。例えば、説明的な文章の要旨をとらえる学習では、主語と述語及び修飾と被修飾との関係をとらえることが求められる場面がある。このような既習事項を活用する場面を適切にとらえて、文の構成や語句の役割などを確かめながら繰り返し指導することが重要である。

5(2) 文脈にあてはまる意味を選択する力に課題が見られる。

【結果分析】

問題番号	ねらい	正答	1	2	3	4	その他	無解答
5(2)	辞書を利用して調べる。 【言語に関する知識・理解・技能】	2	62.3%	30.4%	5.4%	1.0%	0.2%	0.7%

5は、平成17年度調査においても類似した問題を出題している。(1)の終止形で調べることは、正答率81.7%であり、3.0ポイント上昇した。一方、(2)の文脈からあてはまる言葉の意味を選ぶことは、正答率30.4%であり、38.6ポイント低下した。誤答の中で、最も反応率が高いのは選択肢1の「速く進む」で62.3%である。この誤答の原因として、文章の内容を吟味せずに、安易に文中の「マラソン」という言葉に反応して解答したことが考えられる。このことから、辞書を利用する際には、文章の内容を的確にとらえた上であてはまる意味を選択するとともに、選択した言葉の使い方を確認することの大切さを指導する必要がある。

【指導方法改善のポイント】表現の意図を考えながら辞書を活用するように指導する。

第5学年及び第6学年では、辞書を実際の表現や理解の場面で活用し、辞書の活用を習慣化するようにしたい。ただ、分からない言葉の意味を調べるときに辞書を活用するだけではなく、言葉の使われ方を確かめたり、より適切な表現を探すために調べたりするなど、辞書利用の機会を増やすように工夫することが必要である。その際、用例を参考にしながら、「伝えたいことは何かを考えるようにすること」「文意に即して言葉の使い方を吟味すること」などを児童に習慣化させることが重要である。

**6(1) スピーチの目的や話の組み立てについての理解が十分ではない。**

**【結果分析】**

問題番号	ねらい	正答	1	2	3	4	その他	無解答
6(1)	考えた事や意図が分かるように話の組み立てを工夫する。【話す・聞く能力】	3	3.5%	21.5%	69.3%	4.9%	0.1%	0.7%

6は、学級の友達に「自分を支えてくれた言葉」というテーマでスピーチをするという具体的な場面を設定して、話す・聞く能力の実現状況をみる問題である。(1)は「話の組み立てを工夫する」ことについて出題し、スピーチメモの〔組み立て〕を見て、「はじめ→中→おわり」にどのような内容が示されているかを答える問題である。誤答の中で、最も反応率が高い選択肢2は、「いちばん伝えたいこと」を、〔組み立て〕の「中」として位置付けたものである。その原因として、スピーチメモの〔組み立て〕に示されている具体的事例の位置付けを理解していないことやメモの例示から安易に2番目を選択したことなどが考えられる。このことから、話の組み立てに関する指導の充実を図る必要がある。

**【指導方法改善のポイント】目的を意識させながら効果的な話の組み立てを考える指導の充実を図る。**

伝えたい相手や伝える目的が明確であれば、児童は聞き手に分かりやすく伝わるように、話の組み立てを工夫し伝えようとする。そのためには、テーマを①児童の興味・関心に基づくもの、②伝え合うことよさを実感できるもの、③伝えたい内容をすべての児童がもてるものに設定する必要がある。

それとともに、目的意識を持続する働きかけも重要である。児童の目的意識を持続させるためには、掲示資料として視覚的にとらえやすくして常時掲示をしたり、自己評価の項目に目的を意識して活動できたかを加えたりすることが考えられる。その上で、伝えたいことが聞き手に分かりやすく伝わる話の組み立てができるようになってきているかについて、話し合う場面を設定するなど、「話の組み立て」の工夫を児童が具体的にとらえられるような指導の充実を図っていくことが大切である。

**7(2) 書くことの基礎となる言語事項の定着に課題が見られる。**

**【結果分析】**

問題番号	ねらい	正答	1	2	3	4	その他	無解答
7(2)	文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりする。【書く能力】	1	58.5%	11.9%	20.9%	5.0%	2.3%	1.4%

7(2)は、記事の下書きを読み合って、よいところと直した方がよいところを互いに教え合うという場面を設定して、書く能力の実現状況をみる問題である。主な誤答の反応率は、新聞に必要な「いつ」「どこで」「だれが」という事を書くこと、見出しを工夫する必要があることを示した選択肢3の「イとウ」が20.9%、事柄のまとまりで改行することや文末表現の違い（敬体と常体）を示した選択肢2の「アとエ」が11.9%である。これらの誤答の原因として、改行に関する指導や敬体と常体との違いに関する指導が第3学年及び第4学年で行われるが、それ以降、まとまった時間をとって指導されることが少ないなど、十分な確認が行われていないことが考えられる。

**【指導方法改善のポイント】相互に推敲することによりよい文章になることを実感させるようにする。**

推敲の指導については、言語事項との関連を図った指導が必要となる。例えば、チェックリストを作成し、その中に言語事項に関する項目を設定したり、相互に作文を読み合う活動を行ったりすることが考えられる。ただ、そのような学習が形式的な活動になると、児童の推敲の意欲を高めることには、つながりにくい。文章の間違いを正したり、表記を見直したりすることによって、文章がよりよいものになることを実感できるように、適宜、例文を提示して確認するなどの方法も考えられる。

なお、推敲を含めた評価意識は、書くことの過程全体を通して必要とされるものである。したがって、目的意識・相手意識、取材、構成、記述のすべてにかかわるものとして指導する必要がある。

**8(1) 文脈における言葉の意味をとらえる力に課題がある。**

**【結果分析】**

問題番号	ねらい	正答	1	2	3	4	その他	無解答
8(1)	場面についての描写などを味わい叙述に即して読む。【読む能力】	1	59.0%	20.7%	14.2%	3.1%	0.1%	2.9%

8は、文学的な文章を読む能力の実現状況をみる問題であり、(1)は、場面についての描写などを味わいながら叙述に即して読む能力を調査しており、正答率は59.0%である。誤答の中で、最も反応率が高い選択肢2には「きみように感じられる場所」、選択肢3には「うす気味悪く感じられる場所」という語があることから、テナガエビをとる競争をしている場面であることを十分に吟味せずに、設問中の「あやしそうな」という語に似た意味の言葉があるものを選択したと考えられる。このことから、言葉への気付きを大切にして文脈における言葉の意味を考えながら読んだり、実際に言葉の意味を文章に当てはめて確かめたりする指導の充実を図る必要がある。

**【指導方法改善のポイント】読む目的を明確にした活動を工夫する。**

場面の移り変わりや情景を想像しながら読む能力を高めるためには、単に与えられた意味内容をそのまま読むのではなく、語感などの幅のある理解や読み取りを通して表現の役割や価値などを児童が主体的にとらえていこうとすることが必要である。そのためには、読む目的をもち、自らの課題を解決していく過程で、言葉に着目する活動を取り入れる工夫が必要である。例えば、読書発表会を行うために資料を作ったり、作品を再構成したりすることも一つの方法である。児童が読むことの必要感や目的意識をもちながら、主体的に文章を味わいながら読むように工夫することが重要である。

なお、詳細な読解のみに偏るような指導に陥らないように留意する必要がある。

**8(5) 関心・意欲・態度の表れに即して授業改善の方策を検討する必要がある。**

**【結果分析】**

問題番号	ねらい	正答	1	2	3	4	その他	無解答
8(5)	自分の考えを広げたり、深めたりするために進んで読もうとする。【国語への関心・意欲・態度】	1、2、4	49.8%	26.3%	5.3%	12.5%	0.2%	6.0%

8(5)は、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度をみるために、どのような本の読み方をしているかについて出題した。平成16年度調査と同じ問題である。正答の反応率では、選択肢1の「いろいろな種類の本を読もうとする態度」が49.8%、選択肢2の「たくさん本を読もうとする態度」が26.3%、選択肢4の「情報を集めるために選んで本を読もうとする態度」が12.5%であり、選択肢4が最も低い。このことは、平成16年度調査と同じ傾向であり、学習指導要領に示された第5学年及び第6学年の「C読むこと」の内容ア「自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な資料を選んで読むこと」や内容オ「必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること」の指導の充実を図る必要がある。

**【指導方法改善のポイント】学校の実態に応じた指導方法の改善策を作成する。**

「読むこと」の指導に際しては、学校の実態に応じて、次のような指導方法の改善を図ることが考えられる。選択肢1の反応率が低い場合には、読書発表会など、児童が相互に読んだ本を紹介し合うことで、読書の範囲を広げる活動を設定することが考えられる。選択肢2の反応率が低い場合には、朝の読書タイムを設定するなど、本に親しむ機会を増やす工夫が必要である。選択肢4の反応率が低い場合には、調べる目的で読書をするときなどに、本の分類の仕方や本の選び方の指導と併せて、学校図書館の利用についての指導の充実を図ることが大切である。

## 《算 数》

### (1) 内容・観点ごとの結果と分析

#### 【内容ごとの結果と分析】

- 教科全体の総合的な平均正答率は 76.8%であり、学習指導要領の第3学年及び第4学年、第5学年の目標や内容に照らした学習の実現状況については、良好といえる。
- 「数と計算」の平均正答率は 78.2%であり、良好である。出題数9問中、正答率が70%を下回る問題が2問ある。
- 「量と測定」の平均正答率は 79.9%であり、良好である。出題数3問中、正答率が70%を下回る問題はない。
- 「図形」の平均正答率は 71.4%であり、おおむね良好である。出題数4問中、正答率が70%を下回る問題が2問ある。
- 「数量関係」の平均正答率は 76.8%であり、良好である。出題数5問中、正答率が70%を下回る問題が1問ある。

内 容	全都平均正答率
A 数と計算	78.2%
B 量と測定	79.9%
C 図 形	71.4%
D 数量関係	76.8%
総 合	76.8%

#### 【観点ごとの結果と分析】

- 観点ごとの第3学年及び第4学年、第5学年における学習指導要領の目標や内容に照らした学習の実現状況については、「算数への関心・意欲・態度」「数量や図形についての表現・処理」は良好、「数学的な考え方」「数量や図形についての知識・理解」はおおむね良好であるといえる。
- 「算数への関心・意欲・態度」では、3問出題し、いずれも85%を上回る正答率である。  
 $\boxed{4}$ (1)は、問題解決の場面でどのような考えを活用しようとするのかという傾向をみる問題であり、正答率は85.4%である。 $\boxed{7}$ は、目的に応じて単位や計器を適切に選ぶとするのかという傾向をみる問題であり、正答率は96.6%である。 $\boxed{10}$ (2)は、図形の角について調べたり、考えたりする傾向をみる問題であり、正答率は87.7%である。
- 「数学的な考え方」の平均正答率は73.4%であり、出題数3問中、正答率が70%を下回る問題が1問ある。 $\boxed{10}$ (1)は、三角形の内角の和を基に、五角形、六角形の内角の和を求める問題で、正答率は57.0%である。
- 「数量や図形についての表現・処理」の平均正答率は77.7%であり、出題数9問中、正答率が70%を下回る問題が2問ある。 $\boxed{4}$ (2)は、目的に応じて概数で見積もる問題で、正答率は64.6%である。 $\boxed{12}$ (1)は、二つの観点から物事を落ちや重なりがないように分類・整理することについて出題し、正答率は68.3%である。
- 「数量や図形についての知識・理解」の平均正答率は70.7%であり、出題数6問中、正答率が70%を下回る問題が2問ある。 $\boxed{5}$ (2)は、小数の除法の意味の理解について出題し、正答率は65.4%である。 $\boxed{8}$ は、向かい合った2組の辺が平行な四角形について出題し、正答率は64.9%である。

評価の観点	全都平均正答率
算数への関心・意欲・態度	89.9%
数学的な考え方	73.4%
数量や図形についての表現・処理	77.7%
数量や図形についての知識・理解	70.7%

(2) 問ごとの結果分析と指導方法改善のポイント

**1(3) 小数の除法の計算の意味や計算の仕方を理解し、計算することが十分ではない。**

**【結果分析】**

問題番号	ねらい	正答 2.5	0.25	25	その他	無解答
1(3)	小数の除法の計算ができる。 【数量や図形についての表現・処理】	70.5%	16.9%	3.4%	7.7%	1.5%

1(3)は、小数の除法の計算ができるかどうかをみる問題である。誤答の中で、最も反応率が高い解答は、「0.25」で 16.9%である。この誤答の原因として、児童が除数と商の大きさについて、除数が1より小さくなると、商は被除数より大きくなるという関係を十分に理解していないことが考えられる。また、平成17年度の調査における類似した問題より、15.8ポイント低下した。平成17年度の調査における類似した問題は「 $2.1 \div 0.6$ 」で、被除数、除数とも1/10の位までの小数の問題である。被乗数、除数とも10倍にし、整数に直しても商は変わらないというわり算の性質を基に、小数点の移動をして計算処理を行っている。しかし、本年度は「 $2 \div 0.8$ 」と被除数が整数で、除数が1/10の位までの小数の問題である。除数の「0.8」のみ、10倍にし、被除数の「2」を10倍にしていないことから、「0.25」の反応率が高いのではないかと考えられる。そして、3の「除法に関して成り立つ性質を基にして、除数が小数の場合の計算の仕方を考える」という問題の正答率が91.0%と高いことから、実際の計算において、計算処理だけでなく、計算の意味や仕方を振り返ることが必要である。

**【指導方法改善のポイント】 除数と商の大きさの関係を理解を図る指導を工夫する。**

数値のみの指導ではなく、除数と商の大きさの関係については、常に数直線等を用い、理解を確実にする指導の工夫が必要である。また、除数と被除数を同じ数で割っても、同じ数をかけても商は変わらないという計算の性質を生かして、児童に計算の仕方を考えさせる際には、除数と被除数の関係がどんな場合でも、その計算の仕方は使えるのか、というように一般化を図るようにしたい。そうすることで、計算の意味や仕方を基にした計算処理が行われるようになると思う。

**4(2) 具体的な問題場面に即してある位までの概数にして計算することに課題が見られる。**

**【結果分析】**

問題番号	ねらい	正答イ	ア	ウ	エ	その他	無解答
4(2)	目的に応じて、概数で見積もることができる。 【数量や図形についての表現・処理】	64.6%	6.8%	13.1%	14.0%	0.4%	1.1%

4(2)は、具体的な買い物の場面において、買った品物の代金を四捨五入して千の位までの概数にできるかをみる問題である。正答率は64.6%である。主な誤答は、百の位を切り上げて求めた選択肢エの「約8000円」で14.0%、百の位までの概数で求めた選択肢ウの「7200円」が13.1%である。エを選んだ原因として、四捨五入の意味が十分に理解できていないことが考えられる。また、ウを選んだ原因として、何の位までの概数にして計算をするかということが十分に理解できていないことが考えられる。

**【指導方法改善のポイント】 何のために概数にするのか、ねらいを明確にした指導を工夫する。**

目的に応じて、和や差を概数で見積もるためには、何のために見当をつけるのか、そのねらいを明確にする必要がある。買い物の場面で、合計がおよそ何円ぐらいになるかを知りたいときには、一つ一つの値段を四捨五入して見積もればよい。また、1万円で買い物ができるかどうかを判断するときには、個々の値段を多めに見積もるという方法もある。

また、四捨五入するときの言い方を対比して、十分に理解できるようにしていくことも大切である。例えば、3864のような数値の場合、四捨五入して3900とするときに

は、次の3つの言い方になる。

- ①四捨五入して上から2けたの概数にする。  $3\overset{9}{\cancel{8}6}4 \rightarrow 3900$
- ②十の位で四捨五入する。
- ③四捨五入して百の位まで求める。

上記の3つの言い方は異なるが、概数を求める方法は同じである。3つを対比させながら指導し、理解を深めることも大切である。

**5(2) 小数の除法の意味を理解し、演算決定する力に課題が見られる。**

**【結果分析】**

問題番号	ねらい	正答 1.6	4.8	3	その他	無解答
5(1)	小数の除法の演算決定を順序立てて考えることができる。 【数学的な考え方】	72.2%	1.9%	5.2%	16.7%	3.9%
問題番号	ねらい	正答 4.8÷1.6	1.6÷4.8	4.8×1.6	1.6×4.8	その他 無解答
5(2)	小数の除法の意味が分かる。 【数量や図形についての知識・理解】	65.4%	3.6%	2.3%	1.8%	27.0%

5(2)は、長さが1.6mで、重さは4.8gの針金の1mの重さを求める小数の除法の演算決定によって、小数の除法の意味が分かるかをみる問題である。小数の演算決定の問題は、出題の傾向は異なるが、毎年類似した問題を出題している。平成17年度の調査では、「 $84 \div 0.7$ 」の式の問題場面を選択する問題を出題しており、正答率は32.0%と低かった。平成17年度より、正答率が30ポイント以上も上回った理由として、児童が2量の間接関係をとらえやすくするために、数のモデルとなる図を活用して問題を解く形式にしたためだと考えられる。

**【指導方法改善のポイント】** 演算決定の根拠を明確にし、筋道を立てて説明する活動を取り入れる。

5(1)の問題のように問題場面の図を提示するとともに、その図から、針金の長さとお重さの2量の間接関係を順序良く考えていく過程を授業に取り入れていく必要があると考える。演算決定の根拠については、「数直線」や「言葉の式」、「関係を表す図」など多様にある。特に今回のように、基準とする大きさを求める問題は、児童にとっては難しいが、根拠を明らかにして、児童が筋道を立てて2量の間接関係を説明できるようにしたい。問題解決的な学習を展開する際には、児童一人一人が根拠を明らかにし、筋道を立てて自分の考えを説明できるようにするために、隣同士や小グループ内で発表する機会や場を意図的・計画的に設定することが大切である。

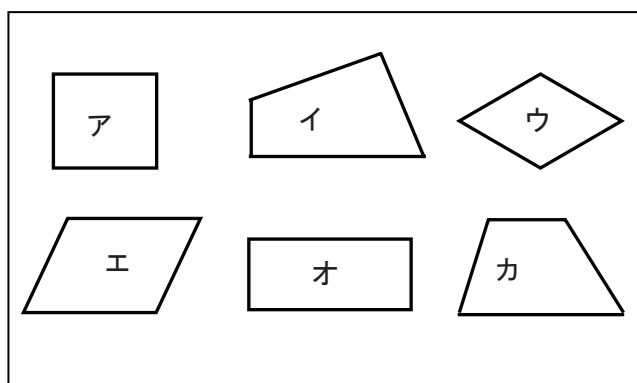
**8 平面図形の性質の理解に課題が見られる。**

**【結果分析】**

問題番号	ねらい	正答(完答) ア、ウ、エ、オ	ア、ウ、エ、オ、カ	ア、エ、オ	ア、ウ、オ	ウ、エ	エ	その他	無解答
8	平行四辺形や台形、ひし形などの四角形の性質(辺の平行関係)が分かる。 【数量や図形についての表現・処理】	64.9%	9.4%	3.4%	3.2%	1.7%	0.4%	15.5%	1.4%

8は、平成16・17年度の調査においても類似した問題を出題している。平成16年度の正答率は49.9%、平成17年度は54.4%、そして、平成18年度は64.9%と徐々に正答率は上昇しているが、「カの台形」を選択した児童の割合はなお、9.4%であることに着目していく必要がある。なお、平成17年度に台形を選択した児童の割合は6.7%である。このことから「向かい合った2組」の意味の理解が不十分であることが考えられる。

【指導方法改善のポイント】図形の観察や構成などの活動を通して、図形の性質を見いだすとともに、見いだした性質を基にして作図するなどの活動を重視する。



図形の性質の理解を図る活動の工夫が大切である。例えば、平行四辺形は向かい合う二辺がそれぞれ平行であるという定義から、平行線を二組引くことにより、作図できる。同様に台形は向かい合う一組が平行であるという定義から作図できる。このように定義から作図することによって、図形の性質の理解が深まると考えられる。

10(1) 基本的な図形の性質を基に、他の図形の性質を見いだすことに課題が見られる。

【結果分析】

問題番号	ねらい	正答(完答) 3, 4	5, 6	その他	無解答
10(1)	三角形の内角の和が $180^\circ$ であることを用いて、五角形、六角形の内角の和を求めることができる。 【数学的な考え方】	57.0%	28.9%	10.7%	3.5%

10(1)は、三角形の内角の和を基に、五角形、六角形の内角の和を求められるかをみる問題である。正答は、「3、4」で正答率は 57.0% である。また、誤答の反応率で最も多かったのは、「5、6」で 28.9% である。この誤答の原因として、五角形、六角形の名称の数を、そのまま「5、6」と当てはめて入れたものと考えられる。

【指導方法改善のポイント】これまでに学習した図形の性質について調べ、それを基にして、他の図形についても調べていく活動を取り入れる。

三角形などの基本図形の性質を学習したら、「もし四角形だったら」、さらには「他の多角形だったら」というように、発展させて考える活動も必要である。また、そのことが一つの場合だけではなく、例えば、四角形で確認できたことが五角形でも確認できるかというように、「どの図形でもいつでも言えるのか」というように、一般化を図ることも大切である。10(1)は、三角形で言えることが、五角形や六角形でも言えるのかということ問うものでもある。論理的に考える力を育成するためには、これまでに学習した図形を基に、その他の多角形についてはどのような性質があるかを調べていく活動を取り入れる指導の工夫が必要である。

また、数学的な考え方を育成するためには、さらに「数値を変えたら」「場面を変えたら」というように、発展させて考えていくこと、また、あるきまりを見いだしたら、それはいつでも使えるものなのかというように、一般化を図っていくことがとても重要である。

そのためには、常にそのことを意識させる教師の発問が重要である。例えば、三角形の内角の和を調べる際に、三角定規にある直角三角形や二等辺三角形のみで、「三角形の内角の和は  $180^\circ$  である」とまとめるのではなく、「どの三角形も、3つの角の和は  $180^\circ$  なのだろうか。」と発問をする。そうすることで、児童は「もしかしたら、違ってもいいかもしれない」と考え、様々な三角形を調べ、その結果、どの三角形も同じであることを確認する。

このような指導を繰り返すことで、児童自らが、「それは、いつでも言えることなのか」「もし、数値や場面を変えても使えるのだろうか」と考えられるようになってくる。児童の数学的な考え方の育成のためには、教師が常に数学的な考え方を促す発問をすることが必要である。

## 《社 会》

### (1) 内容・観点ごとの結果と分析

#### 【内容ごとの結果と分析】

- 教科全体の総合的な平均正答率は81.9%であり、学習指導要領の第3学年及び第4学年、第5学年の目標や内容に照らした学習の実現状況については、良好といえる。
- 「地域学習」の平均正答率は83.0%であり、良好といえる。出題数8問中、正答率が70%を下回る問題が2問ある。
- 「我が国の食料生産」の平均正答率は、84.3%であり、良好といえる。出題数4問中、正答率が70%を下回る問題が1問ある。
- 「我が国の工業生産」の平均正答率は、78.8%であり、良好といえる。出題数6問中、正答率が70%を下回る問題が2問ある。

内 容	全都平均正答率
地域学習	83.0%
我が国の食料生産	84.3%
我が国の工業生産	78.8%
総 合	81.9%

#### 【観点ごとの結果と分析】

- 観点ごとの第5学年における学習指導要領の目標や内容に照らした学習の実現状況については、「社会的事象への関心・意欲・態度」「社会的な思考・判断」「社会的事象についての知識・理解」は良好、「観察・資料活用の技能・表現」はおおむね良好といえる。
- 「社会的事象への関心・意欲・態度」の平均正答率は94.6%であり、出題した3問とも、90%を上回る正答率である。[3]は、「地域に昔から伝わるものや行事にどのようなにかかわろうとしているか」について出題し、正答率は98.4%である。[6](3)は、「我が国の水産業の学習のときにどのような調べ方を行うか」について出題し、正答率は94.3%である。[8](2)は、「我が国の工業生産の学習のときにどのような学習課題を調べるか」について出題し、正答率は91.0%である。
- 「社会的な思考・判断」の平均正答率は、86.1%であり、出題数5問中、正答率が70%を下回る問題が1問ある。[10]は、「我が国の貿易の在り方に対する意見の根拠」について出題し、正答率は57.1%である。
- 「観察・資料活用の技能・表現」の平均正答率は、74.6%であり、出題数6問中、正答率が70%を下回る問題が3問ある。[1]は、「主な地図記号や方位を活用した簡単な地図の読み取り」について出題し、正答率は59.2%である。[7]は、「我が国の食料生産の現状と課題の読み取り」について出題し、正答率は65.3%である。[8](1)は、「我が国の工業が盛んな地域の分布の特色の読み取り」について出題し、正答率は61.5%である。
- 「社会的事象についての知識・理解」の平均正答率は、78.2%であり、出題数4問中、正答率が70%を下回る問題が1問ある。[4](2)②は、「東京都と結び付きのある県の位置」について出題し、正答率は62.9%である。

評価の観点	全都平均正答率
社会的事象への関心・意欲・態度	94.6%
社会的な思考・判断	86.1%
観察・資料活用の技能・表現	74.6%
社会的事象についての知識・理解	78.2%

(2) 問ごとの結果分析と指導方法改善のポイント

1 主な地図記号や四方位を理解し、活用する力が十分ではない。

【結果分析】

問題番号	ねらい	正答	1	2	3	4	その他	無解答
1	主な地図記号や方位を活用して土地利用の様子や施設などの場所を読み取る。 【観察・資料活用の技能・表現】	3	8.9%	21.9%	59.2%	8.4%	1.1%	0.5%

1は、主な地図記号や方位を活用して土地利用の様子や施設などの場所を読み取る問題であり、平成17年度の本調査においても類似した問題を出題している。正答は、選択肢3の「学校の北には、田が広がっています。また、学校の西には、消防署があります。」で、正答率は59.2%である。平成17年度の類似した問題の正答率より4.9ポイント上昇した。主な誤答の反応率は、選択肢2の「学校の南には、果樹園が広がっています。また、学校の東には、病院があります。」が21.9%、選択肢1の「学校の南には、田が広がっています。また、学校の北には、神社があります。」が8.9%である。

これらの誤答の原因として、選択肢2を選んだ児童は、地図上の南北の方位と果樹園や病院の地図記号は理解しているが、東西の方位が地図上のどの位置を示すのかを理解していないことが考えられる。また、選択肢1を選んだ児童は、田や神社の地図記号は理解しているが、南北が地図上のどの位置を示すのかを理解していないことが考えられる。さらに、選択肢4を選んだ児童は、地図上の南北の方位と田の地図記号は理解しているが、工場や市役所、交番などの主な地図記号を理解していないことが考えられる。

【指導方法改善のポイント】 主な地図記号や四方位を理解し、活用する指導の充実を図る。

地図の指導については、まず第3学年及び第4学年の「身近な地域や市（区、町、村）の学習」において、主な地図記号や四方位を理解させ、それらを地図の読み取りの際に活用できるようにすることが大切である。さらに、それ以降の学年においても、地図や分布図などの基礎的資料を読み取る際には、主な地図記号や四方位を活用して位置関係や分布の様子を表現する指導を意図的・計画的に行っていく必要がある。

4(2)② 東京都と結び付きのある県の位置の理解が十分ではない。

【結果分析】

問題番号	ねらい	正答	1	2	3	4	その他	無解答
4(2)②	東京都と結び付きのある県の位置が分かる。 【社会的事象についての知識・理解】	4	10.8%	17.8%	7.1%	62.9%	0.4%	0.9%

4(2)②は、東京都と結び付きのある県として、東京都に隣接する千葉県、埼玉県、山梨県、神奈川県的位置を理解しているかをみる問題であり、平成16・17年度の本調査においても類似した問題を出題している。正答は選択肢4の「神奈川県」であり、正答率は62.9%である。平成17年度の類似した問題の正答率より10.5ポイント上昇した。主な誤答の反応率は、選択肢2の「千葉県」を選択した児童が17.8%、選択肢1の「埼玉県」を選択した児童が10.8%である。これらの誤答の原因として、東京都に隣接する県の相互の位置関係や東京都との位置関係の理解が十分ではないことが考えられる。

【指導方法改善のポイント】 地図を活用して都道府県の名称や位置を理解する指導の充実を図る。

我が国を構成している都道府県の名称や位置については、教科用図書の地図（地図帳）を活用して常に確かめていく指導が必要である。例えば、第3学年及び第4学年の「県（都、道、府）の様子」の学習では、東京都と結び付きのある県の名称だけでなく、東京都との位置関係についても重視して指導したり、第5学年の「産業や国土に関する学習」では、事例となる地域の位置やその概要を地図で調べる学習活動を設定したりすることが考えられる。

**6 (3) 関心・意欲・態度の現れに即して授業改善の方策を検討する必要がある。**

**【結果分析】**

問題番号	ねらい	正答	1	2	3	4	その他	無解答
6 (3)	我が国の水産業に関する学習において適切な学習方法を選択する。 【社会的事象への関心・意欲・態度】	1、3、4	30.0%	5.2%	52.1%	12.2%	0.1%	0.4%

6 (3)は、「農業(稲作)に関する学習」の後に行う「水産業に関する学習」における学習方法についての関心・意欲・態度をみる問題である。正答の反応率は、選択肢3の「図書室に行って、日本の主な漁港とそこでの水あげ量について本を使って調べる。」が52.1%、選択肢1の「スーパーマーケットに行き、魚や貝などの水産物の食品表示から産地を調べる。」が30.0%、選択肢4の「水産業で働く人に、魚のとり方のくふうについて手紙を書いて質問する。」が12.2%である。選択肢4の反応率が最も低かった原因については、産業に携わる人々の工夫や努力を調べる学習方法として、「手紙を書いて調べる」という学習経験をもつ児童が少ないからではないかと考えられる。

**【指導方法改善のポイント】学級や児童の実態に応じた指導方法の改善策を作成する。**

「農業や水産業、工業といった産業に関する学習」を行う際には、この反応率を基にして、次のような指導方法の改善を図っていくことが考えられる。選択肢1の反応率が低い場合には、児童の日常生活にある具体物を活用して、「くらしと産業とのかかわり」を調べるといった体験的な学習活動を設定していくようにする。また、選択肢3の反応率が低い場合には、学校の図書室だけではなく地域にある図書館を利用したり、事例となる地域が発信する情報を収集したりして、学習課題を調べる学習活動を設定していくようにする。さらに、選択肢4の反応率が低い場合には、産業に携わる人々の工夫や努力を調べる際に、インタビューしたり、手紙を書いて質問したりする学習活動を設定していくようにする。

**7 統計資料を関連付けて読み取る力が十分ではない。**

**【結果分析】**

問題番号	ねらい	正答	1	2	3	4	その他	無解答
7	統計資料から我が国の食料生産の現状と課題を読み取る。 【観察・資料活用の技能・表現】	2	6.6%	65.3%	21.4%	5.8%	0.3%	0.5%

7は、我が国の食料生産の現状と課題について、複数の統計資料を関連付けて読み取る問題であり、平成17年度の本調査においても類似した問題を出題している。正答は選択肢2の「資料1（国別の食料自給率）と資料2（年れい別農業人口のうつり変わり）」で、正答率は65.3%である。平成17年度の類似した問題の正答率より6ポイント下回った。誤答の中で、最も反応率が高いのは、選択肢3の「資料1（国別の食料自給率）と資料3（田畑の面積のうつり変わり）」で、21.4%の反応率である。

これらの誤答の原因として、問題文の「ひろ子さんたちの会話」にある、みゆきさんの発言の「農業で働く人がへっていることと関係があるのかな。」の部分の根拠になっている統計資料を「標題」を見て選択することができなかったことや、折れ線グラフが右下がり傾いていることから、「減っている」ということが視覚的に分かる統計資料を選択してしまったことなどが考えられる。

**【指導方法改善のポイント】統計資料の読み方や複数の統計資料を関連付けて考える指導の充実を図る。**

統計資料は、学習の中で頻繁に活用する基礎的資料であるため、「統計資料の標題から何を表した資料なのかを読み取る」「縦軸や横軸は何を表しているのかを読み取る」「データのおおまかな傾向を読み取る」など、統計資料の読み方についての基本的な指導の充実を図る必要がある。また、複数の統計資料を関連付けて読み取るためには、まず、個々の統計資料から事実を読み取り、次に、それらの読み取った事実を関連付けて因果関係や特徴などを考えるといった指導を行っていくことが大切である。さらに、児童一人一人が基礎的資料から読み取った事実やその事実から考えたことをノートなどに書き、それを基に児童が互いに話し合っって考えを深めていくような指導も重視していく必要がある。

**8(1) 我が国の工業が盛んな地域の分布の特色について、資料を活用して読み取る力が十分ではない。**

**【結果分析】**

問題番号	ねらい	正答	1	2	3	4	その他	無解答
8(1)	分布図から我が国の工業が盛んな地域の分布の特色を読み取る。 【観察・資料活用 of 技能・表現】	4	6.6%	26.1%	4.9%	61.5%	0.1%	0.8%

8(1)は、「日本の主な工業地帯、工業地域」の分布図から、我が国の工業が盛んな地域の分布の特色を読み取る問題であり、平成17年度の本調査においても類似した問題を出題している。正答は、選択肢4の「工業のさかんな地域は、本州の太平洋側の海ぞいや本州と四国の瀬戸内海ぞいに多い。」で、正答率は61.5%である。平成17年度の類似した問題より3.4ポイント上回った。主な誤答の反応率は、選択肢2の「工業のさかんな地域は、本州の内陸や四国の瀬戸内海ぞい、九州の太平洋側の海ぞいに多い。」が26.1%、選択肢1の「工業のさかんな地域は、北海道や本州、九州の日本海側の海ぞいに多い。」が6.6%である。なお、平成17年度の類似した問題においても、誤答の反応率として最も高かったのは、選択肢2の「工業のさかんな地域は、本州の内陸や四国の瀬戸内海ぞい、九州の太平洋側の海ぞいに多い。」である。

これらの誤答の原因として、我が国の工業が盛んな地域の分布の特色を読み取る際に、「北海道」「本州」「四国」「九州」といった国土の構成とともに、「内陸」「瀬戸内海ぞい」「日本海側」「太平洋側」といった言葉の意味と、その言葉が表す国土の位置を十分に理解していないことが考えられる。

**【指導方法改善のポイント】 基礎的資料から読み取ったことを表現する指導の充実を図る。**

分布図も基礎的資料の一つであり、そこに表されている内容について具体的に読み取り表現していく学習活動を充実させていく必要がある。例えば、第5学年の「産業や国土に関する学習」においては、国土の構成を表す「北海道」「本州」「四国」「九州」といった言葉や国土における位置を表す「内陸」「瀬戸内海ぞい」「日本海側」「太平洋側」といった言葉の意味を理解させ、その言葉を使って分布図を読み取り表現していく指導を意図的・計画的に行っていくことが大切である。

**10 統計資料から事実を読み取り、根拠を考える力が十分ではない。**

**【結果分析】**

問題番号	ねらい	正答	1	2	3	4	その他	無解答
10	我が国の貿易の在り方に対する意見の根拠について考える。 【社会的な思考・判断】	1	57.1%	23.8%	13.1%	4.6%	0.1%	1.3%

10は、二つの統計資料から導き出した「これからの我が国の貿易の在り方についての意見」（結論）について、そのような意見（結論）を導き出した根拠（理由）を考える問題である。正答は、選択肢1の「日本では、工業原料を外国から輸入し、工業製品を外国に輸出しているから。」で、正答率は57.1%である。主な誤答の反応率は、選択肢2の「日本では、生活に使われている工業製品のほとんどを外国から輸入しているから。」が23.8%、選択肢3の「日本では、工業原料をたくさん生産することができ、外国にも輸出しているから。」が13.1%である。

これらの誤答の原因として、資料1の「日本の主な輸出品の割合」のグラフから「我が国は、輸送機械や電気機械などを外国へ輸出している」という事実を、また、資料2の「日本の主な工業原料の輸入の割合」のグラフから「我が国は、石油や石炭などの工業原料を外国から輸入している」という事実を読み取ることができなかつたことが考えられる。また、それらの事実を結び付けて、我が国の貿易が「加工貿易」といって、外国との関係によって成り立っていることをとらえられなかつたことも誤答の原因の一つとして考えられる。

**【指導方法改善のポイント】 統計資料から事実を読み取り、思考・判断する指導の充実を図る。**

統計資料から具体的な事実を読み取り、その具体的な事実から自分の考えをもち、適切に判断していく学習活動を十分に取り入れていく必要がある。例えば、資料から「分かること（事実）」を導き出し、その事実から根拠（理由）を明確にして自分の考え（結論）を構築したり、自分の考え（結論）を表現する際に、なぜそのように考えたのかという根拠（理由）を明確にしたりする指導を行っていくことが大切である。

## 《理 科》

### (1) 内容・観点ごとの結果と分析

#### 【内容ごとの結果と分析】

- 教科全体の総合的な平均正答率は73.7%であり、第3学年及び第4学年、第5学年における学習指導要領の目標や内容に照らした学習の実現状況については、おおむね良好といえる。
- 「A 生物とその環境」の平均正答率は70.3%であり、おおむね良好である。出題数6問中、正答率が70%を下回る問題が3問ある。
- 「B 物質とエネルギー」の平均正答率は68.0%であり、おおむね良好である。出題数7問中、正答率が70%を下回る問題が5問ある。
- 「C 地球と宇宙」の平均正答率は83.7%であり、良好である。出題数6問中、正答率が70%を下回る問題が1問ある。

内 容	全都平均正答率
A 生物とその環境	70.3%
B 物質とエネルギー	68.0%
C 地球と宇宙	83.7%
総 合	73.7%

#### 【観点ごとの結果と分析】

- 観点ごとの第3学年及び第4学年、第5学年における学習指導要領の目標や内容に照らした学習の実現状況については、「自然事象への関心・意欲・態度」は良好、「科学的な思考」「観察・実験の技能・表現」「自然事象についての知識・理解」はおおむね良好といえる。
- 「自然事象への関心・意欲・態度」の平均正答率は95.7%であり、出題した全3問ともに、正答率は90%を上回っている。2(4)は、「発芽したインゲンマメを観察するときにしらべてみたいこと」について出題し、正答率は92.1%である。3(2)は、「光電池の性質を使った車を速く走らせるためにしてみたい工夫」について出題し、正答率は98.7%である。7(4)は、「星を観察するときにしらべてみたいこと」について出題し、正答率は96.4%である。
- 「科学的な思考」の平均正答率は72.5%であり、出題数5問中、正答率が70%を下回る問題が2問ある。5(2)は、「てこにおける力点及び作用点の位置や力の大きさの関係」について出題し、正答率は50.6%である。6(2)は、「てこが釣り合うときの規則性を活用しておもりの重さについて考える場面」について出題し、正答率は61.4%である。
- 「観察・実験の技能・表現」の平均正答率は71.0%であり、出題数5問中、正答率が70%を下回る問題が2問ある。2(2)は、「植物の発芽について実験の計画を立てる際の条件設定」について出題し、正答率は58.7%である。5(1)は、「てこの働きについて実験の計画を立てる際の条件設定」について出題し、正答率は64.2%である。
- 「自然事象についての知識・理解」の平均正答率は65.9%であり、出題数6問中、正答率が70%を下回る問題が5問ある。1(1)は、「不完全変態の昆虫の育ち方」について出題し、正答率は60.1%である。1(2)は、「昆虫の体は、頭・胸・腹からできており、胸には3対6本のあしがあること」について出題し、正答率は60.5%である。3(1)は、「乾電池2個のときの豆電球のつなぎ方と豆電球の明るさとの関係」について出題し、正答率は58.3%である。4は、「磁石を自由に動くようにしておくと、N極が北をS極が南を向くこと」について出題し、正答率は69.7%である。7(1)は、「太陽が昇る方角と沈む方角」について出題し、正答率は63.2%である。

評価の観点	全都平均正答率
自然事象への関心・意欲・態度	95.7%
科学的な思考	72.5%
観察・実験の技能・表現	71.0%
自然事象についての知識・理解	65.9%

(2) 問ごとの結果分析と指導方法改善のポイント

**1 (1) (2) 昆虫の育ち方や体のつくりの共通点についての知識・理解の定着に課題が見られる。**

**【結果分析】**

問題番号	ねらい	正答	1	2	3	4	その他	無解答
1 (1)	昆虫の育ち方には一定の順序があることを理解している。【自然事象についての知識・理解】	1	60.1%	5.8%	5.4%	28.6%	0.1%	0.1%
1 (2)	昆虫の胸には、3対6本のあしがあることを理解している。【自然事象についての知識・理解】	3	4.7%	27.6%	60.5%	7.0%	0.1%	0.1%

1 (1) (2) は、第3学年で学習する昆虫の育ち方や体のつくりの共通性についての知識・理解の実現状況をみる問題である。

(1)の正答は、選択肢1の「卵→幼虫→成虫」であり、正答率は60.1%である。誤答の中で最も反応率が高かったのは、選択肢4の「卵→幼虫→蛹→成虫」である。この原因として、モンシロチョウなどの完全変態の昆虫の育ち方についての知識に比べて、バッタなどの不完全変態の昆虫の育ち方についての知識が定着していないことが考えられる。

(2)の正答は、選択肢3の「胸に3対6本のあしがある図」であり、正答率は60.5%である。誤答の中で最も反応率が高かったのは、選択肢2の「胸に2対4本のあし、腹に1対2本のあしがある図」である。この原因として、①昆虫を観察する場面が十分に確保されていないことや②昆虫の体のつくりの特徴をとらえるために細部まで詳しく観察することは、第3学年の児童にとって難しい活動であることなどが考えられる。

**【指導方法改善のポイント】 昆虫の共通点がとらえやすいように指導を工夫する。**

昆虫の育ち方については、完全変態の昆虫だけではなく、不完全変態の昆虫についても扱うことが小学校学習指導要領解説理科編に明記されており、学習時間を確保する必要がある。実際に不完全変態の昆虫を卵から育てることが難しい場合には、映像資料を活用するなど、視覚的に育ち方がとらえられるように工夫することが大切である。

昆虫の体のつくりについては、児童一人一人が昆虫を十分に観察できる場面を設定するとともに、児童が観察しやすいように器具等を工夫することが大切である。

**2 (1) (2) (3) 観察や実験の計画を立てる際の条件の考え方に課題が見られる。**

**【結果分析】**

問題番号	ねらい	正答	1	2	3	4	その他	無解答
2 (1)	植物の発芽について、条件に着目して観察や実験の計画を立てることができる。	3	4.2%	3.7%	73.7%	10.2%	8.1%	0.1%
2 (2)	【観察・実験の技能・表現】	2	22.1%	58.7%	6.2%	4.3%	8.5%	0.1%
2 (3)	植物の発芽について、結果から結論を考察することができる。【科学的な思考】	4	5.1%	14.5%	3.6%	76.5%	0.2%	0.1%

2 (1) (2) (3) は、条件に着目して観察や実験の計画を立てる力の実現状況をみる問題であり、平成17年度の本調査においても類似した問題を出題している。

(1)及び(3)の正答率はともに70%を超え、定着が図られているといえるが、(2)の正答率は58.7%である。(2)は発芽に必要な条件として温度を調べる実験を計画するという設定であるが、誤答の中で最も反応率が高かったのは、選択肢1の「日光についての条件を変えたもの」である。この原因として、温度という条件が日光の有無によって変わるととらえていることから、問題に提示した「20℃(机の上)」と「5℃(冷蔵庫)」という温度設定の違いをとらえることができなかつたことが考えられる。

**【指導方法改善のポイント】 観察や実験の条件設定について検討する場面を設定する。**

観察や実験の条件について考える力を育成するためには、児童一人一人が観察や実験の計画を立てた後に集団で検討する場面を設定するなど、児童が観察や実験の条件設定の妥

当性について考える場面を意図的・計画的に設定することが大切である。

**3 (1) 回路を流れる電気の働きについての知識・理解の定着に課題が見られる。**

**【結果分析】**

問題番号	ねらい	正答	1	2	3	4	その他	無解答
3 (1)	乾電池の数やつなぎ方を変えると豆電球の明るさが変わることを理解している。 【自然事象についての知識・理解】	4	24.7%	14.2%	2.5%	58.3%	0.1%	0.2%

3 (1) は、第 4 学年の理科で学習する乾電池 2 個のときの豆電球のつなぎ方と豆電球の明るさとの関係についての知識・理解の実現状況をみる問題で、正答率は 58.3% である。誤答の中で最も反応率が高かったのは選択肢 1 の「並列回路で乾電池の向きが逆になっているもの」である。この原因として、電気の流れについて正しく理解できていないことが考えられる。特に、選択肢 1 の回路は、いわゆるショート回路になっており、危険な回路である。この回路については、授業の中で教師が適切に指導しなければならない。

誤答の中で、次に反応率が高かったのは、選択肢 2 の「並列回路」である。この原因として、豆電球の明るさと回路の関係について十分に理解できていないことが考えられる。

**【指導方法改善のポイント】 要因を抽出する力の育成を目指した指導を工夫する。**

「自然の事物・現象の変化と関係する要因を抽出する力」は、第 4 学年で身に付けるべき問題解決の能力である。この力を育成するためには、児童一人一人がさまざまな回路について自由に実験することができる時間を設定し、児童自らが十分な体験を通して豆電球の明るさの変化と回路の関係に気づき、実験結果をまとめていくことができるようにするなど、学習の展開を工夫することが大切である。

**5 (1) (2) 条件に着目して考える力の定着に課題が見られる。**

**【結果分析】**

問題番号	ねらい	正答	1	2	3	4	その他	無解答
5 (1)	てこの働きについて、条件に着目して実験の計画を立てることができる。【観察・実験の技能・表現】	2	11.0%	64.2%	6.1%	18.3%	0.2%	0.2%
5 (2)	てこの働きについて、力を加える位置や力の大きさを関係付けて考えることができる。【科学的な思考】	3	12.6%	5.7%	50.6%	26.1%	4.7%	0.2%

5 (1) (2) は、てこの働きについて条件に着目して実験の計画を考える力と力を加える位置や力の大きさなどを関係付けて考える力の実現状況をみる問題で、(1) の正答率は 64.2% である。条件に着目して実験の計画を立てる力については、2 (2) においても指摘したが、物質とエネルギーの内容においても課題があることが分かる。

また、5 (2) の正答率は 50.6% であり、課題がみられる。正答である選択肢 3 と誤答の中で最も反応率が高かった選択肢 4 は、図イを含んでいる点が共通しているが、図ウと図エをそれぞれ含んでいるという点が異なっている。つまり、力点の位置については 76.7% の児童が正答を選んでおり、考える力が定着しているといえるが、作用点の位置という条件に着目して考える力については不十分であり、課題がみられることが分かる。この原因として、授業の中で児童自らが考える場面が十分に確保されていなかったり、考察についての指導が十分に行われていなかったりすることが考えられる。

**【指導方法改善のポイント】 児童自らが考察する場面を意図的・計画的に設定する。**

実験において結果が得られた後には、結果からどんな結論が導き出せるのかについて児童自らが考察する場面を意図的・計画的に設定することが必要である。そして、児童一人一人が考察した内容について、学級全体や小グループで協議する時間を確保し、他の児童の考え方を学んだり自分の考え方を振り返ったりすることで考察する力をはぐくんでいくことが重要である。

**7(1) 太陽の動きについての知識・理解の定着に課題が見られる。**

**【結果分析】**

問題番号	ねらい	正答	1	2	3	4	その他	無解答
7(1)	太陽の動きについて理解している。 【自然事象についての知識・理解】	1	63.2%	32.1%	2.5%	1.8%	0.1%	0.4%

7(1)は、第3学年で学習する太陽の動きについての知識・理解の実現状況をみる問題である。

この問題の正答は、選択肢1の「東からのぼって、西にしずむ」であり、正答率は63.2%である。誤答の中で最も反応率が高かったのは、選択肢2の「西からのぼって、東にしずむ」である。原因として、①児童が屋外で過ごす時間が減少し、日の出や日の入りなどをはじめとした太陽の動きを意識する機会が減少していること、②東と西の方位をしっかりと理解していないなど、方位についての理解が不十分であること、③第3学年の学習で日陰の位置の変化から太陽の動きをとらえる活動を行うため、日陰の動きと太陽の動きを混同してしまっていることなどが考えられる。

**【指導方法改善のポイント】 実感を伴った理解を図るための指導を工夫する。**

日陰の位置の変化から太陽の動きを間接的にとらえる活動を行う際には、児童が日陰と太陽の位置関係について十分に理解した上で、観察を行うようにすることが必要である。また、日陰の位置の変化だけではなく、遮光板等を用いて太陽の位置の変化についても直接確認する機会を設けるのも有効な手だてである。さらに、夕刻に日の入りを見るように児童や家庭に呼びかけたり、日常的に太陽の動きを意識するように教室に方位を示す掲示物を掲示したりするなどの手だても考えられる。

**7(4) 児童の関心・意欲・態度の現れに即して授業改善の方策を検討する必要がある。**

**【結果分析】**

問題番号	ねらい	正答	1	2	3	4	その他	無解答
7(4)	星に興味・関心を持ち、意欲的に観察しようとする。 【自然事象への関心・意欲・態度】	1, 2, 4	31.4%	21.8%	3.1%	43.2%	0.1%	0.4%

7(4)は、星や星座についての関心・意欲・態度をみる問題である。

この問題の正答は選択肢1と選択肢2、選択肢3と複数あるが、反応率は選択肢4の「望遠鏡を使って、もっとたくさんの星が見えるか調べてみたい」が43.2%と一番高い。この背景の一つとして、東京都では多くの地域で星や星座を見ることが難しい状況にあり、多くの児童が日常生活の中でたくさんの星や星座を見た経験が少ないことが考えられる。

誤答である選択肢3を選んだ児童については、星を観察するという設定にもかかわらず、懐中電灯の光に関心が向いてしまっていて、この活動における関心・意欲・態度の評価規準に照らし合わせてみて、おおむね満足できる状況とはいえない。児童が星や星座について関心がもてるように映像資料や読み物資料を活用するなど、具体的な支援について準備しておく必要がある。

**【指導方法改善のポイント】 学級や児童の実態に応じた指導方法の改善策を作成する。**

選択肢1の反応率が低い場合には、星座早見や図鑑などの資料を使って児童がいろいろな星や星座にかかわる機会を意図的に設定することで星座の種類への関心を高めることが大切である。選択肢2の反応率が低い場合には、星の動いた様子が線になって写っている写真を提示してその背景を考える場面を設定することで、星の動きへの関心を高めることが大切である。選択肢4の反応率が低い場合には、1等星などの明るい星だけではなくたくさんの星が写った映像資料を提示したり、地域のプラネタリウムなどの施設を活用した学習を設定したりすることで星の数への関心を高めることが大切である。